



### 餅ノ沢遺跡 1

若木山北麓、鳴沢川と長前川に挟まれた丘陵上に立地する縄文前期末葉～中期初頭、中期後葉～後期前葉の集落。発掘調査により、長径30m近い超大型竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴・墓・捨て場などから構成される集落跡が見つかりました。墓は板状の石を組み合わせた石棺墓で、副葬品も発見されました。大規模な捨て場からは大量の土器・石器ほか、祭祀に使用された土偶・ミニチュア土器や青森県最古のヒスイ製品が見つかりました。



### 浮橋貝塚 2

鳴沢川右岸の台地斜面に位置する縄文前期の貝塚・集落。弘前大学の発掘調査により、ヤマトシジミを主体とする小規模な貝塚が検出され、土器・石鏃・石槍・石匙・磨製石斧・石錘などの石器、骨針・有孔骨器などの骨器が出土しました。また、貝塚上方の平坦面からは、縄文前期と平安時代の竪穴住居跡が発見されています。

### 空沢遺跡 3

若木山北麓、湯舟川右岸の丘陵上に立地する平安時代の大規模鉄生産集落。砂鉄・鉄鉱石などの原料から鉄を生成する製鉄炉34基をはじめ、鉄から鋼を生成したり鉄製品に加工するための鍛冶炉、燃料となる木炭を生産する炭窯などが集中して発見されました。若木山北麓においては、本遺跡のような鉄生産遺跡が多数見つかっており、生産された鉄素材や鉄製品は、津軽地域はもとより北海道にまで流通したと考えられています。

### 北浮田弘誓閣 4

津軽三十三観音第7番札所。本尊聖観世音菩薩。高皇産靈神を祭神とする高倉神社に隣接します。天和2年(1682)浮田村庄屋惣兵衛創建と伝えられます。近世には飛竜宮と称されましたが、明治初年の神仏分離により高倉神社を分立して廃堂となりました。その後高倉神社が第7番札所に位置づけられていましたが、昭和41年(1966)高倉神社境内に観音堂が再建され、弘誓閣と名づけられました。



### 滝山高沢寺 5

曹洞宗寺院。本尊釈迦牟尼仏。創建は南北朝時代に遡り、能登国総持寺2世峨山紹碩の高弟、道叟道愛開山と伝えられます。その後荒廃するも、元和元年(1615)全室應が米町に

再興、文化4年(1807)山崩れにより堂宇が全壊、同8年(1811)現在地に再建されました。現在の本堂は慶応3年(1867)建立。文化8年(1811)再建の武学流の庭園「瀧園」ほか、弘前の絵師平尾魯仙の地獄絵「十王図」、猿蓑山人の「滝見観音」などを所蔵します。

### 白八幡宮・船絵馬 6

祭神菅田別尊。大同2年(807)坂上田村麻呂創祀、康元元年(1256)鎌倉幕府執権北条時頼再建と伝えられます。慶長8年(1603)津軽為信が再建、鯉ヶ沢の総鎮守としました。以降、歴代藩主の崇敬を集め、弘前八幡宮・浪岡八幡宮とともに津軽三八幡宮の1つに数えられました。地域住民をはじめ、鯉ヶ沢湊に出入りする商人の信仰も集め、船絵馬などが奉納されています。延宝5年(1677)より隔年毎に行われていた神輿渡御は、現在は4年毎に開催されています。



### 鯉ヶ沢町奉行所 7 御飯屋跡

鯉ヶ沢湊の管理や治安維持を司る町奉行所ならびに藩主巡行の際の休憩所・宿泊所である御飯屋跡。鯉ヶ沢町中心部の台地上に位置します。鯉ヶ沢町奉行所は寛文8年(1668)設置され、町奉行2名ほか配置されていました。



### 一乗山法王寺 8

浄土宗寺院。本尊阿彌陀如来。弘治元年(1555)良本による開山、あるいは明暦元年(1655)常陸国水戸から布教にきた良心間益の創建とも伝えられます。元禄15年(1702)藩主の命で、弘前貞昌寺・青森正覚寺とともに飢饉餓死者供養を行いました。慶応2年(1866)大火で焼失、昭和44年(1979)現本堂を再建し、現在に至ります。恵心僧都作とされる本尊ほか、菅原道真作と伝えられる観音像などを所蔵します。

### 護法山来生寺 9

真宗大谷派寺院。本尊阿彌陀如来。当初天台宗妙円寺として創建されましたが、戦国時代に焼失。加賀国へ赴いた住持は、本願寺10世証如の弟子となり、同地に来生寺を開きました。孫の清源は鯉ヶ沢へ移り、承応元年(1652)妙円寺跡地に来生寺を復興したとされます。県重宝「阿彌陀如来像」「親鸞上人蓮座御影」をはじめ、本願寺8世蓮如筆の六字名号・三帳和讃写本などを所蔵します。

■来生寺親鸞上人蓮座御影【県重宝】…室町時代に遡ると推

定される絵画資料。浄土真宗の開祖親鸞を中心に、上部に師の法然、下部に親鸞の門下僧を配した構図となっています。■来生寺阿彌陀如来像【県重宝】…四十八願を象徴する光線を背景に、阿彌陀如来が来迎の印相を結ぶ構図となっています。本尊3世覚如(1271～1351)筆と伝えられますが、様式から室町時代の制作と推定されています。

### 海聚山永昌寺 10

日蓮宗寺院。本尊十界勸請御本尊。寛文元年(1661)日護が諸国修行の途上、鯉ヶ沢にあった無住の天台宗庵に居住、寛文3年小庵を結い、貞享2年(1661)永昌寺を開山したと伝えられます。本園寺(京都)29世日解院主(小泊出身)が所有していた日蓮の分骨片・袈裟の断片・瑪瑙玉などを所蔵します。また「ハラゴモリの鬼子母神」は、疍の虫・夜泣き封じの神様として信仰を集めています。

### 延寿院菩薩坐像

#### (寺伝薬師如来像)【県重宝】 11

曹洞宗延寿院本尊。西海岸に唯一所在する円空仏。寛文2年(1662)に鯉ヶ沢沖で漁網にかかったものと伝えられ、「海上漂流黒本尊」とも称されますが、三厩義経寺像や蓬田正法院像など、津軽半島諸像とほぼ同時期寛文7年(1677)頃の制作と推定されています。



### 赤石追分石 12

安政2年(1855)旧国道と赤石沢目道の分岐点に建立。「右大間越街道 左赤石沢目通」の文字が刻まれています。

### 赤石山松源寺 13

曹洞宗寺院。本尊釈迦如来。天正2年(1574)長勝寺(弘前)第3世蜜田和尚の隠居所として赤石村(鯉ヶ沢)に創立され、松源院を号したと伝えられます。松源院は慶長年間(1596～1615)弘前城下へ移り清安寺と改号、その跡地に承応2年(1653)達道が松源庵を創立しました。明治2年(1869)寺号を許され、松源寺となりました。境内に中世の板碑が3基あります。

■松源寺千手観音菩薩立像…松源寺に祀られている木造仏。胴部ほかは近世以降の後補ですが、品格のある美しい表情をみせる頭部は中世に制作されたものとされます。もともと日照田の高倉神社観音堂に安置されていたと伝えられます。

### 高倉神社 14

■日照田観音堂…津軽三十三観音第8番札所。本尊十一面観世音菩薩。大同2年(807)坂上田村麻呂創建と伝えられます。近世には飛竜宮とも称しましたが、明治初年の神仏分離で飛竜宮は廃社、高皇産靈命を祭神とする高倉神社となりました。その後十一面観世音菩薩を祀り、現在に至っています。■湯舟観音堂…津軽三十三観音第6番札所。本尊聖観世音菩薩。創建年代は不詳ですが、近世には飛竜宮と称されていました。明治初年の神仏分離で飛竜宮は廃社となり、高皇産靈神を祭神とする高倉神社となりました。その後聖観世音菩薩を祀り、現在に至っています。

■大イチョウ…境内に立つイチョウ。推定樹齢300年以上・樹高22m・幹周800cm。母乳が出るようになる乳神木として知られ、鯉ヶ沢町天然記念物に指定されています。

### 種里八幡宮 15

祭神菅田別尊・少彦名命・大己貴命・保食神。大永3年(1522)津軽氏の祖大浦光信が、種里城の鎮守ならびに武運長久…門繁氏の祈願所として創建したと伝えられます。慶長3年(1598)津軽為信が寄進したとされる石螺・獅子・弓などが現存します。

### 種里城跡・御廟所【国史跡】 16

赤石川左岸の丘陵に立地する中世城館。大浦為信の祖先、大浦(南部)光信の居城とされます。巨大な堀跡に囲まれた主郭を中心に、その外側には寺院跡・侍屋敷跡と伝えられる平場や、光信の「御廟所」があります。発掘調査により、平安時代の遺構・遺物とともに、室町時代後期の掘立柱建物跡・竪穴建物跡・井戸跡・土坑、陶磁器・銭貨などが見つかり、光信入部前後の様相が明らかとなりました。平成14年(2002)「津軽氏城跡」の一つとして国史跡に指定されています。

■鯉ヶ沢町郷土文化保存会「光信公の館」…津軽家の始祖とされる大浦光信の居城種里城跡に平成2年(1990)開館。種里城跡の発掘資料や津軽家及び弘前藩に関する資料、鯉ヶ沢町の歴史について紹介しています。開館時間 9:00～17:00(9月～10月は16:30で閉館) / 休館日 5/1～10/31の金・土・日曜日のみ開館、ただしゴールデンウィーク、5月中旬～6月上旬のボタン祭り期間中は無休 / 観覧料 大人300円、高校生220円、小・中学生150円 / TEL0173-79-